[意見]「理科年表」への要望

国立天文台編纂「理科年表」は，信頼できるデータブックとして教科書にもしばしば表や数値が引用されている．ところで「理科年表」天文部の末尾には「天文学上の主な発明発見と業績」の表があるが，驚いたことにこれには1967年のパルサーの発見までしか載っていない．それ以後記載するに値する発見は皆無であったのか？　しかもX線星の発見者の一人が10年近く前から「ハオリーニ」となっている．また1666〜87年の項に「プリンキピア，万有引力」とあるが，「物理学上のおもな発明および発見」の表では，1687年の項に「運動の法則」「万有引力」とある．ニュートンは1666年に万有引力の着想を得たが，完成は20年後であった．

「天文トピックス」の内容はたいへん有益であるが，こういう項目は他の分野にはない．これが他の分野の人々から天文の特権と見られていはしないかと気になる．やはりこの項目は止めて，データブックとしての性格に徹するべきだろう．そして浮いたページを天文学史年表の見直しと拡充に当てていただきたい．何しろ物理は8ページ，化学は5ページなのに天文は2ページしかないのだから．さもないと1851年フーコーによる地球自転の証明や，1946年ガモフのビックバン理論まで物理学史年表に「おまかせ」する状態が続くことになる．

佐藤明達（東京都）

編集部より

1993年8月号より編集委員が交代しました．前編集委員の努力により，天文月報の紙面は刷新され，読み易く，内容もかなり分かりやすくなったと思っています．

今期の委員は前期のこの編集方針を踏襲するつもりです．その際，原則として著者の原稿を尊重し，著者に無断で表現・内容を変更しません．そのために編集部とのやりとりが増え，著者の負担が増えるかもしれません．著者の意向を読者に正確に伝えるためには，このやりとりは必要なことと考えています．また前期に始まった**SKY-LIGHT, EUREKA, 天球儀**等の区分けを引継ぎます．

ただ，天文学会の財政が逼迫しているため，天文月報のページ数に厳しい制限が設けられました．常設コーナーのいくつかをときに休載することになるかもしれません．広告収入の増大によってこれを回避しようと考えておりますが，相手のあることなので，予断は許しません．

編集部は素人集団です．今風に言えば，ボランティアの集まりです．これから2年の間，実践しながら成長するつもりなので，会員諸氏のご協力をお願いします．

天文月報編集委員

☆

☆　　☆

☆

編集委員　谷川清隆（編集長），坂尾太郎，田代　信，中川貴雄，中村　士，濱部　勝，林左絵子，半田利弘
平成5年7月20日　発行人　〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内　社団法人　日本天文学会
印刷発行　印刷所　〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12　啓文堂松本印刷
定価550円(本体534円)　発行所　〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内　社団法人　日本天文学会
電話　(0422)31−1359　振替口座 東京 6-13595